

粟田口霑笛竹（澤紫ゆかりの咲分）

序

弄月庵主人

青空文庫

今を去る三十年の昔、三題だばなし噺という事一時いちじの流行物となりしか
 ば、当時圓朝子が或る宴席おいに於て、國綱くにつなの刀、一節切ひとよぎり、船せんど
 人うという三題を、例の当意とういそくみよう即妙みまにて一座の喝采を博したる
 が本話の元素たり。其の時聴衆咸言みなつて謂いえらく、斯かばかりの佳
 作を一節切の噺はなし捨すてに為なさんは惜おしむべき事ならずや、宜敷よろしく足ら
 ざるを補あつぱいなば、適あつぱれ席上の呼び物となるべしとの勧めもとづに基もとぎ、
 尚なわかなもり金森しんに充分の枝葉しやうを茂らせ、國綱くにつなに一層ひとへの研とぎを掛け、一節切
 に露つゆとり取とをさえ添そえ、是に加うるに俳優さわむらしよざん澤村さわむら曙しやう山やまが逸事もつを以
 てし、題あけして花菖蒲はなしょうぶ沢さわの紫むらさと号なづせしに、この紫あけや朱あけより先の世
 の評判へいばんを奪うばい、三十年後の今日こんにちまで迄依然いぜんとして其の色いろを変かぜざる

のみか、一度やまと新聞に写し植字たるに、ひとたび 这也復時期に粟こまたあわだ
田口ぐち鋭き作意と笛竹ふえたけの響き渡り、恰もあたか船人せんどうの山に登るべき
高評なりしを、書房ふみやは透さずこの船人の脇わきろを押し事を許された
りとして、自己おのれをして水先見よと乞うて止まねば、久しく採らぬ水み
茎ずぐきの禿ちびたる掉さおを徐やおら採り、ソラ当りますとの一いちげん言ごを新版発兌しんぞおろし
の船唄に換えて序とす。

弄月庵主人記

青空文庫情報

底本：「圓朝全集 卷の三」近代文芸資料複製叢書、世界文庫

1963（昭和38）年8月10日発行

底本の親本：「圓朝全集 卷の三」春陽堂

1927（昭和2）年1月28日発行

※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の表記をあらためました。

また、総ルビの底本から、振り仮名の一部を省きました。

底本中の「其」は、「其の」としました。

入力：小林繁雄

校正：門田裕志、仙酔ゑびす

2010年10月16日作成

2011年2月13日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.w.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

粟田口霨笛竹（澤紫ゆかりの咲分）

序

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫
著者 弄月庵主人
URL <http://www.aozora.gr.jp/>
E-Mail info@aozora.gr.jp
作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU
URL <http://aozora.xisang.top/>
BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>